序

1963年に日本における理学療法士（PT），作業療法士（OT）の最初の養成校が開学し，1966年に第1回国家試験が行われてから50数年が経ちました．高齢社会の進展とともに養成校数も有資格者数も飛躍的に増加しました．また職域も広がり，社会あるいは保健，医療，福祉，教育におけるPTOTの存在感と役割も増しています．1つの専門職集団がその社会のなかで占める数，役割が増えれば，その専門職集団が適切に機能していくために，管理・運営つまり管理学の視点が必要になります．

本書は，PTOTにとって今後ますます重要となる管理学について，初学者や学生でも理解しやすいように解説することを目的として作成されました．本書の特徴は，以下3点です．

①管理学の大本となる社会科学や組織と関連法規の大本となる法体系全体について記述したこと

②病院や施設だけでなく，卒前教育（養成校）や研究室，会社（起業）などにおける管理・運営についても記述したこと

③PTOTがともに使用できるように記述したこと

特に，3点目の「PT，OTがともに使用できる」ことは重要と考えます．過去50年間，PT，OTは，他の専門職集団の関係とは違う形で生まれ，成長してきました．弁護士と税理士の関係とは違い，整形外科医と形成外科医の関係とも違い，医師と看護師の関係とももちろん違います．PTとOTの関係は，それが1つの社会科学的研究対象になるのではないかと思わせるくらい特異な関係にあると思います．そのなかで，これからの50年は，個々に専門性を深め，それを互いにもっとよく知るように努めながら，両者の共通項や重複部分を整理する必要があるでしょう．そのためには，管理学の知識や技術が必要であり，その知識や技術はPTとOTに共通していることが望ましいと考えます．それが結果的に，疾病や障害をもち困っている人によりよい手助けを提供することにつながるはずです．以上が「PTOTがともに使用できる」管理学の教科書が必要と考える理由です．

本書がPTOT，そして学生にとってとっつきにくいであろう管理学をより効率的に，より深く理解するための一助になることを願っています．

最後に，臨床や教育，研究でお忙しいなかご執筆いただいた執筆者の皆さま，丁寧に細かいところまでお世話くださった株式会社羊土社 原田 悠様，今城葉月様をはじめ編集部の皆さまに深謝いたします．

2020年10月

齋藤昭彦，下田信明